



東京湾再生官民連携フォーラム
令和元年度事業報告

令和2年3月
東京湾再生官民連携フォーラム

目次

I. 事業期間	1
II. 事業項目	1
1. 一般財団法人セブン-イレブン財団との基本協定書（2019年度～2021年度）締結	1
2. 新3か年事業計画スタート（初年度）	1
3. 政策提案の実施	1
4. 交流・連携事業の実施強化	1
5. 東京湾再生官民連携フォーラム主催 企業・行政等施設見学会 2019	1
6. 東京湾再生官民連携フォーラム 企画運営委員会の開催	1
7. 東京湾再生官民連携フォーラム 令和元年度通常総会の開催（令和元年10月26日）	1
8. 海ごみ・プラスチックゴミクリーンアップ活動の実施	1
9. プロジェクトチームの活動 2019	1
10. 東京湾大感謝祭 2019 の開催（令和元年10月26日・27日）	1
11. 東京湾再生官民連携フォーラム 後援・協賛等の実施	2
12. 会員募集・広報活動	2
III. 事業実施経過と成果	2
1. 政策提案	2
2. 交流・連携事業の実施強化	3
(1) 企業とNGO等との交流会	3
(2) 令和元年度 CSR-NPO未来交流会 開催	3
(3) 施設連携	6
(4) 令和元年度 PT 長会議開催	7
(5) 人と組織と環境をむすぶフォーラム IN 東京 参加による広報活動	8
(6) PT 連携の推進/PT 未来クロス 2019	9
3. 東京湾再生官民連携フォーラム主催 企業・行政等施設見学会 2019	10
4. 東京湾再生官民連携フォーラム企画運営委員会	12
5. 令和元年度通常総会の開催	13
6. 海ごみ・プラスチックゴミクリーンアップ活動の実施	14
7. プロジェクトチームの活動状況	18

◇東京湾環境モニタリングの推進 PT (PT 長 古川 恵太)	18
◇生き物生息場づくり PT (PT 長 佐々木 淳)	19
◇指標活用 PT (PT 長 岡田 知也)	20
◇東京湾大感謝祭 PT (PT 長 木村 尚)	21
◇パブリックアクセス方策・検討 PT (PT 長 竹口 秀夫)	23
◇東京湾での海水浴復活の方策検討 PT (PT 長 関口 雄三)	23
◇江戸前ブランド育成 PT (PT 長 牧野 光琢).....	23
◇東京湾浅瀬再生実験 P T (P T 長 鈴木 康友)	24
◇東京湾の窓 P T (P T 長 芝原 達也)	24
8. 東京湾再生官民連携フォーラム 共催、後援等の実施.....	25
9. 会員募集・広報活動	25
(1) 東京湾 NEWS-LETTER 配信	25
(2) 会員募集	25
(3) 東京湾/フォーラム活動の紹介・各地への情報発信.....	27
(4) 資料－ 1 会員メール配信 東京湾 NEWS LETTER	30
(4) 資料－ 2 業界紙・誌等掲載.....	34
10. 政策提案書.....	34
東京湾パブリック・アクセス方策 政策提案“東京湾へGO”	34
未来の東京湾と人のつながりの再構築に向けた、東京湾の窓施設のネットワーク推進に関する提案	34
11. 令和元年度決算書.....	41

I. 事業期間

平成 31 年 (2019) 4 月 1 日 (月) ~ 令和 2 年 (2020) 3 月 31 日 (火)

II. 事業項目

主な活動項目は以下の通り。

1. 一般財団法人セブン-イレブン財団との基本協定書 (2019 年度~2021 年度) 締結
2. 新 3 か年事業計画スタート (初年度)
3. 政策提案の実施
 - ・東京湾パブリック・アクセス方策 政策提案“東京湾へGO”
 - ・未来の東京湾と人のつながりの再構築に向けた、東京湾の窓施設のネットワーク推進に関する提案
再生推進会議提出・手交の実施 (令和元年 12 月 4 日)
4. 交流・連携事業の実施強化
 - 多様な連携方法を模索した活動の実施
 - (1) 企業とNGO等との交流会 (令和元年 5 月 22 日)
 - 経団連自然保護協議会主催・経団連 自然保護基金 共催「2019 年度シンポジウム・企業と
NGO等との交流会」に参加
 - (2) CSR-NPO未来交流会を開催 (令和元年 7 月 18 日)
 - (3) 施設連携の実施(ネットワーク化):東京湾の窓 PT スタンプラリー (令和元年 8 月 1 日~11 月 30 日)
 - 共催・国土交通省関東整備局、東京湾再生官民連携フォーラム
 - 東京湾再生アンバサダーによる PR、東京湾沿岸域 12 施設から 14 施設へと協力拡大。
 - (4) PT 長会議の実施 (令和元年 8 月 28 日)
 - (5) 「人と組織と環境をむすぶフォーラム in 東京」参加による広報活動
 - フォーラムはパネル展示等を実施 参加者との交流促進を図る (令和元年 8 月 31 日)
 - (6) PT 連携の推進:東京湾窓 PT&指標活用 PT
 - (東京港野鳥公園 里地里山フェスティバル展示参加) (令和元年 11 月 17 日)
5. 東京湾再生官民連携フォーラム主催 企業・行政等施設見学会 2019
 - 「昭和電工(株)プラスチックケミカルリサイクル工場の見学(会員限定)(令和元年 9 月 3 日)
6. 東京湾再生官民連携フォーラム 企画運営委員会の開催
 - 多様な主体からなる企画運営委員 34 名によるフォーラム活動方針の決定 (4 回/年)
7. 東京湾再生官民連携フォーラム 令和元年度通常総会の開催 (令和元年 10 月 26 日)
 - 政策提案の承認
8. 海ごみ・プラスチックゴミクリーンアップ活動の実施
 - クリーンアップ東京湾 海ゴミ、プラゴミ・ストップ活動
9. プロジェクトチームの活動 2019
10. 東京湾大感謝祭 2019 の開催 (令和元年 10 月 26 日・27 日)

11. 東京湾再生官民連携フォーラム 後援・協賛等の実施

- (1) 東京湾ぐるっとスタンプラリー：東京湾の窓PT（令和元年8月1日～11月30日）
- (2) 第20回東京湾シンポジウム：国土交通省 国土技術政策総合研究所（令和元年10月17日）
- (3) 第11回東京湾海洋環境審シンポジウム（令和2年2月25日）

12. 会員募集・広報活動

Ⅲ. 事業実施経過と成果

1. 政策提案

1-1. 政策提案

12月4日（水）、東京湾再生官民連携フォーラムは、東京湾再生推進会議に、二つの政策提案を実施しました。

- ①「東京湾の再生に向けたパブリック・アクセス方策に関する政策提案」
- ②「未来の東京湾と人のつながりの再構築に向けた東京湾の窓施設のネットワーク推進に関する政策提案」



▲参事官室にてフォーラム活動、提案内容の説明

▲ 手交の様子（センター：再生推進会議 山田幹事長
（海上保安庁総務部参事官）右側：フォーラム 來生（きすぎ）議長
左側：東京湾パブリック・アクセス方策検討 竹口PT長）

1-2. 今後の政策提案への取り組み

各PTでは、すでに提案した政策のフォローと新たな政策提案に関する活発な議論が行われています。

これまでに6件の政策提案を実施し、指標PTでは、具体的な活動指標のデータ収集などを行い、今後につなげていく活動を実施しています。生き物生息場づくりPTの提案では、その後の活動として、具体的な産卵場の検証、調査活動を実施しています。東京湾奥での海水浴復活のための第一次政策提案では、今後の海水浴への理解を関係自治体へと働きかけの政策提案を行っています。同様に各自治体の持つ情報を有効に活用し、海、港施設等までのルートを創り出すパブリックアクセスの必要性を多様な視点からとらえて提案を行っています。東京湾の窓施設のネットワーク推進に関する提案では、環境教育との重要性を踏まえ、自治体間の連携や省庁の連携を課題にあげ、その方策提案を行っています。これらの提案を生活者、東京湾再生を意識した生活者の日常に働き掛ける活動にフォーラムとしてつなげていきます。

2. 交流・連携事業の実施強化

(1) 企業とNGO等との交流会

東京湾再生官民連携フォーラムは、令和元年5月22日、経団連自然保護協議会主催・経団連自然保護基金共催の2019年度シンポジウム「企業とNGO等との交流会」に参加した。

会場は経団連会館・2Fホールで開催、同日に、「企業とNGO等との交流会」が行われ、シンポジウムに参加し、交流会での展示等を実施した。交流会では、シンポジウム参加者、展示団体グループとの交流を図りフォーラム活動の理解促進を図った。シンポジウム 会場



<2019年度 シンポジウム 企業とNGO等との交流会>

開催日：令和元年5月22日

場 所：経団連会館4F

主 催：経団連自然保護協議会

共 催：公益信託経団連自然保護基金

<企業とNGO等との交流会>

展示団体：18団体

来場者へのポスター・パネル展示、

活動紹介パンフレットなど配布



(2) 令和元年度 CSR-NPO未来交流会 開催

<開催概要>

開催日：令和元年7月18日（木）

開催場所：東京都千代田区麹町5-1弘済会館4F（萩）

・主催：東京湾再生官民連携フォーラム

・後援：国土交通省 関東地方整備局

・協力：経団連自然保護協議会、

一般財団法人セブン-イレブン記念財団

・参加団体：45団体74名



▲講演会の様子



← テーブルごと5つのグループに分かれ、議論内容を取りまとめてグループ代表による発表

内 容：

今回は、今注目されている「海ごみ・海洋プラスチックごみ」について、交流会第一部、第二部に亘って、現状、対策、回収、再生、清掃活動等について、行政、企業、学識経験者、市民団体、NPO 団体等の方々から話をお聞きしました。

参加団体は 45 団体 74 名で、グループディスカッションは 5 グループに分かれ、熱心な情報交換が行われました。

今回の交流会には、海ごみ、特に海洋プラスチックゴミの対策に関心が高く、グローバル的にも日常使われてきたスーパーのレジ袋やストローといったプラスチック製品の今後の使用に注目が集まっています。

海ごみ、特に海洋プラスチックゴミの対策は、生活の利便性と引き換えに生じている環境、海の環境への配慮・対応が急速に必要と意識され始めています。交流会テーマを「プラスチックゴミ、海ごみの問題」に設定し、さまざまな視点から、また異なる組織、団体、個人からその知恵を集めた交流を図りました。

結果として、海洋プラスチックゴミに、より多くの関心を寄せる組織団体が、今後の現場活動を含めた「東京湾のクリーンアップ活動」への関心確認等などが行えました。

交流会を踏まえてフォーラム事務局は、実際に葛西海浜公園、浦安三番瀬等のクリーンアップ活動などに参加し、その方法や調査体験を行い、クリーンアップ活動を実際行っている NPO、団体・組織への協力を深め、後援等を実施していきます。

◆ プログラム

I 部 協働・連携による社会イノベーション 13：10～15：00

[講演者]

	主催者挨拶	東京湾再生官民連携フォーラム 議長 来生 新
講演 - 1	日本の海洋ゴミ対策の現状と今後の課題	中里 靖：環境省 水・大気環境局 水環境課 海洋環境室 室長
講演 - 2	日本プラスチック工業連盟の海洋プラスチック問題への取り組み	岸村 小太郎：日本プラスチック工業連盟 専務理事
講演 - 3	陸域～河川～海域のマイクロプラスチック動態	二瓶 泰雄：東京理科大学 理工学部 土木工学科 教授
講演 - 4	海ゴミ マイクロ・プラスチックの取り組み	橋爪 慶介：DEXTE-K 西なぎさ発：東京里海エイド主宰
講演 - 5	港湾における海ゴミへの取り組み	成川 和也：国土交通省 港湾局 海洋・環境課 港湾環境政策室 室長

II 部 情報交流会 15：15～15：35

5つのグループに分かれ、モデレーターがプレゼンテーション団体・NPO 組織と企業の交流をお手伝い。熱心な情報交換が行われました。

モデレーター役：東京湾再生官民連携フォーラム事務局

まとめ 閉 会：東京湾再生官民連携フォーラム 事務局長 細川 恭史

参加団体一覧

【情報交流話題提供者】

(順不同、敬称略)

番号	団 体 名	氏 名
1	浦安三番瀬を大切にする会、浦安水辺の会 代表	今井 学
2	NPO 法人荒川クリーンエイド・フォーラム	藤森 夏幸
3	認定 NPO 法人 神奈川海難救助隊 理事	小川 茂
4	「プラスチック・スマート」フォーラム事務局 (一財)日本環境衛生センター部長	村岡 良介

【行政研究機関等】

番号	団 体 名
1	東京大学 大気海洋研究所
2	国土技術政策総合研究所
3	品川区環境情報活動センター

【参加企業等団体】

(順不同)

番号	団 体 名	
1	八千代エンジニアリング株式会社	2 帝人株式会社
3	出光昭和シエル	4 持田製薬株式会社
5	五洋建設株式会社	6 一般社団法人 みうら学・海洋教育研究所
7	株式会社 安藤・間	8 公益社団法人 日本環境技術協会
9	東亜建設工業株式会社	10 株式会社オリエンタルランド
11	いであ株式会社	12 株式会社ピリカ
13	港湾空港タイムス(都市計画通信社)	14 日本下水道施設業協会
15	鹿島建設	16 東亜合成株式会社
17	国土技術政策総合研究所	18 品川区環境情報活動センター
19	エコロジーブレイン株式会社	20 AGC 株式会社
番号	団 体 名	
21	株式会社平泉洋行	22 昭和産業株式会社
23	大成建設株式会社	24 東亜建設工業株式会社
25	日本空港コンサルタンツ	26 トップラン・フォームズ株式会社
27	日本海工株式会社	28 三井化学株式会社
29	重化学工業通信社	30 株式会社 島津製作所

番号	団 体 名【市民団体等】		
1	化学物質問題市民研究会	1 1	認定 NPO 法人えどがわエコセンター
2	海藻おしば協会	1 2	NPO 法人国際ボランティア学生協会
3	下水道広報プラットホーム	1 3	NPO 法人地図文化研究会
4	江戸前ブランド育成 PT	1 4	NPO 法人 NPO 支援センターちば
5	フィールドミュージアム・三番瀬の会	1 5	全国川ごみネットワーク
6	NPO 法人ベイプラン・アソシエイツ	1 6	NPO 法人環境パートナーシップ千葉
7	環境・国際研究会	1 7	NPO 法人エコ生活ひろめ隊
8	湘南クリーンエイドフォーラム	1 8	NPO 法人 海辺づくり研究会
9	浦安三番瀬を大切にす会	1 9	経団連自然保護協議会
1 0	NPO 法人日本ビーチ文化振興協会	2 0	一般財団法人 セブンイレブン 記念財団

(3) 施設連携

東京湾ぐるっとスタンプラリーの開催 2019年8月1日～11月30日

主 催：東京湾の窓 プロジェクトチーム

スタンプラリー 事務局 大森 海苔のふるさと館 谷津干潟ワイズユース・パートナーズ

共 催：国土交通省関東地方整備局 東京湾再生官民連携フォーラム

協 力：観音崎自然博物館、横浜・八景島シーパラダイス、
大師河原干潟館、大森 海苔のふるさと館、
東京都立 東京港野鳥公園、しながわ水族館、
豊海おさかなミュージアム、東京都葛西臨海水族園、
都立葛西臨海公園鳥類園、浦安市郷土博物館、
行徳鳥獣保護区（市川野鳥の楽園）、
ふなばし三番瀬環境学習館、習志野市 谷津干潟自然観
察センター、みなとオアシス“渚の駅” たてやま

協 賛：光写真印刷(株)

京浜急行電鉄(株) マルハニチロ(株) 特定非営利活動

法人日本国際湿地保全連合

参 加 費：無料（有料施設の場合は、通常の利用と同様に料
金をお支払いいただく）

記 念 品：抽選で 200 名様以上に記念品プレゼント



スタンプラリー台紙

★スタンプ 3 個でクリアファイルがもらえる！（抽選 200 名）

★スタンプ 5 個で「東京湾グッズ」がもらえる！（抽選 50 名）

★スタンプ 10 個で抽選により 10 名さまに「東京湾グッズ+干潟図鑑」をプレゼント

★スタンプ 14 個・パーフェクト賞 「東京湾セット」を抽選で 5 名さまにプレゼント

記者発表：国土交通省関東整備局より「東京湾ぐるっとスタンプラリー」開催～14 施設協力・東京湾の魅力伝える～



谷津干潟自然観察センター スタンプラリーコーナー ふなばし三番瀬環境学習館

(4) 令和元年度 PT 長会議開催

1. 開催日：令和元年 8 月 28 日（水）
2. 場 所：みなと総合研究財団 会議室
3. 議 題：

1. PT 活動と政策提案について

- ・再生推進会議の行動計画（第二期）中間報告等について

中間報告のスケジュールについて、海上保安庁に確認し、フォーラムへの意見照会が行われる予定。令和 2 年 1～2 月のフォーラムへの意見照会は、再生推進会議幹事会承認の（案）を再生推進会議名でフォーラム議長あての正式な形での照会となる。

<検討結果>

中間報告書の目次構成、案文、骨組み、記述の重点が見えたところで早めに見せて頂きたいと要望する。

- ・政策提案について

政策提案を行う当事者となる PT より状況報告が行われ、意見交換を実施した。当該 PT は、東京湾窓 PT、東京湾パブリック・アクセス方策検討 PT で、

<意見交換結果>

提案対象となる自治体、施設連携の在り方、施設担当者や教材等の共通化などについて意見交換が行われ、政策提案のまとめ方に関する議論が東京湾窓 PT に寄せられました。結果を踏まえて政策提案への参考としていく結果となった。

2. 東京湾の日の制定にむけて

- ① 東京湾の日の定義
- ② 名称

③具体的な日<例 10 (トウ) 月 1 (ワン) 日> の検討→登録手続き

④東京湾カードの運用について

例を参考にしてカード特性の検討

例) a.ダムカード

b.守り隊・阪南市の例 (私たちの日常の小さな取組が、「きれいで元気な海」を守ります。

本市の豊かな海を皆さんで守りましょう。)

c.高知県観光特使 (20施設の無料入場券となっている名刺)

<検討結果>

実際の行動・活動の具体的な点、その日だけではなく月間の設定など期間についての意見、記念日の名称登録は不要の意見、東京湾カードについては様々な活用に仕方の意見交換が行われた。結果として、事務局が意見を踏まえて、取り組んでいきます。

3. PT 未来クロスの実施について

・PT 活動のパネル展示とミニシンポの開催

(11月開催予定(大森海苔のふるさと館、指標活用PTのご協力)

<活動結果>

実際には、大森海苔のふるさと館から東京港野鳥公園に場所を変更し実施しました。

11月17日(土)に第8回東京港野鳥公園 里地里山フェスティバルが開催され、これに合わせてフォーラムでは、自然学習センターの2Fのコーナーに、東京港野鳥公園のご協力により試みとしてPT連携として、指標活用PTと東京湾の窓PTの連携(施設連携)を図り、指標活用のパネル展示や東京湾一斉調査のマップ、9つのPT活動を紹介するパネル展示、フォーラム会員の募集を実施しました。

(5) 人と組織と環境をむすぶフォーラム in 東京 参加による広報活動

1. 開催日：令和元年8月31日(土)
2. 場 所：セブン&アイ HLDs. ビル
3. 主 催：(一財)セブン-イレブン記念財団
4. 協 力：(独)環境再生保全機構、
(公財)コメリ緑育成財団、TOTO 株式会社、
(一社)日本環境NPOネットワーク、
関東地方パートナーシップスオフィス
5. 内 容：
第一部「海×山×SDGs」地域活動の講演とパネル ディスカッション



▲一部の講演 第二部 助成制度紹介



▲展示ブースでのフォーラム紹介



▲ 助成制度の説明

(6) PT 連携の推進／PT 未来クロス 2019

フォーラム、東京湾を楽しむ-9つの東京湾活動紹介
 展示・実施東京港野鳥公園 里地里山フェスティバル 11
 月 17 日開催に参加。

1. 日 時：令和元年 11 月 17 日（日曜）
 イベント開催時間：10：00～15：00
2. 場 所：東京港野鳥公園（東京都大田区東海 3-1）
3. 主 催：東京港野鳥公園イベント実行委員会 東京
 港埠頭株式会社、公益財団法人日本野鳥の会、
 NPO 法人東京港グリーンボランティア、東京港
 野鳥公園ボランティアガイド
4. 共 催：東京都港湾局、東京港野鳥公園グループ



フォーラムでは、自然学習センターの2Fのコーナーに、試みとして PT 連携として、指標活用 PT と東京湾の窓 PT の連携（施設連携）を図り、東京湾一斉調査のマップ、9つの PT 活動を紹介するパネル展示やフォーラム会員の募集を実施しました。

東京湾の施設パネル紹介



水遊びイベント、環境学習イベント等 参加者データの展示



3. 東京湾再生官民連携フォーラム主催 企業・行政等施設見学会 2019

昭和電工（株）プラスチックケミカルリサイクル工場見学

1. 開催日時 : 令和元年9月3日(火)
13:00~16:00 (フォーラム会員対象)
2. 見学場所 : 昭和電工 プラスチックリサイクルケミカル工場
3. 主 催 : 東京湾再生官民連携フォーラム
4. 協 力 : 昭和電工川崎事業所



5. 内 容 :

▲受付・バスに乗りし、リサイクル工場へ

プラスチックがリサイクルされる仕組みを実際に見学工場見学コースは、破碎成形設備・ガス化設備を中心に、見学バスにて工場内を昭和電工の担当者から案内していただきました。川崎事業所は、化学コンビナートであり、1930年の工場設立以来、長い伝統と実績を有しています。

◆プログラム

- | | |
|---------------|---------------------|
| 12:45 ~ 13:00 | JR川崎駅前南 駅前大通り 集合 |
| 13:00 | 出発(貸切バス) |
| 13:20 | 昭和電工川崎事業所着 |
| 13:30 ~ 15:30 | 施設レクチャー&見学(貸切バスで移動) |
| 16:00 | 川崎駅南着 解散 |

ケミカルリサイクルは、お菓子の袋やシャンプーボトルなどをはじめ使用されたプラスチックを製品・商材として再利用することができるのが大きな特徴です。リサイクルと呼ばれる中には、エネルギーとして使用し、燃焼させる手法によるエネルギー転換が国内では多くなっているのが現状です。



▲プラスチック アンモニア原料化事業
の説明



▲研修会議室からプラスチックの破碎、成形プラ加工の様子を内覧することができる



▲ガス化プラント

4. 東京湾再生官民連携フォーラム企画運営委員会

4-1 令和元年度 第1回企画運営委員会

1. 開催日時 令和元年5月28日(火) 16:00~18:00
2. 開催場所 スタンダード会議室 虎ノ門SQUARE店
東京都港区虎ノ門1-15-10 名和ビル4階

3. 議事次第

《審議事項》

- (1) 平成30年度事業報告(案)、決算(案)及び監査結果について

《報告事項》

- (1) PT活動報告
- (2) PTの政策提案予定
- (3) CSR-NPO 未来交流会2019について
- (4) 令和元年度PT長会議について
- (5) 東京湾クリーンアップ大作戦2019について
- (6) 経団連自然保護協議会「2019年度シンポジウム・企業とNGO等との交流会」参加報告
- (7) その他

4-2 令和元年度 第2回企画運営委員会

1. 開催日時 令和元年8月2日(金) 10:00~12:00
2. 開催場所 スタンダード会議室 虎ノ門SQUARE店
(東京都港区虎ノ門1-15-10名和ビル4階)

3. 議事次第

《審議事項》

- (1) 東京湾パブリック・アクセス方策検討PT政策提案(案)について (2) 東京湾の窓PT政策提案(案)について《報告事項》
- (1) PT活動報告
- (2) CSR-NPO 未来交流会2019開催報告
- (3) 令和元年度企業・行政等施設見学会について
- (4) 令和元年度PT長会議について
- (5) 東京湾クリーンアップ大作戦2019について
- (6) 東京湾再生官民連携フォーラム令和元年度総会について
- (7) その他

4-3 令和元年度 第3回企画運営委員会

1. 開催日時 令和元年10月3日(木) 10:00~12:00
 2. 開催場所 虎ノ門法経ホール (東京都港区西新橋 1丁目20番3号 虎ノ門法曹ビルB1)
- ##### 3. 議事次第

《審議事項》

- (1) 東京湾再生官民連携フォーラム 設置要綱の改定について

- (2) 企画運営委員会委員の選任及び企画運営委員長の選出について
- (3) 東京湾パブリック・アクセス方策検討 P T 政策提案 (案) について
- (4) 東京湾の窓 P T 政策提案 (案) について
- (5) 令和元年度フォーラム通常総会議事次第 (案) について

≪報告事項≫

- (1) 令和元年度 P T 活動報告
- (2) その他
 - ① 令和元年度 P T 長会議報告
 - ② 東京湾再生官民連携フォーラムクリーンアップ活動について
 - ③ ベルモントフォーラム国際共同研究への協力について

4-4 令和元年度 第4回企画運営委員会

- 1. 開催日時 令和2年3月10日(火) 審議議題と審議資料の配信
- 2. インターネットによる委員会の開催
- 3. 議事次第

≪報告事項≫

- (1) フォーラム令和元年度事業報告 (案) について
- (2) 平成30年度決算修正について
- (3) アンバサダー継続就任について

≪報告事項≫

- (1) フォーラム令和元年度事業報告 (案) について
- (2) 令和元年度 P T 活動報告、令和2年度 P T 活動計画

5. 令和元年度通常総会の開催

開催日時：令和元年10月26日(土) 9:20~11:10

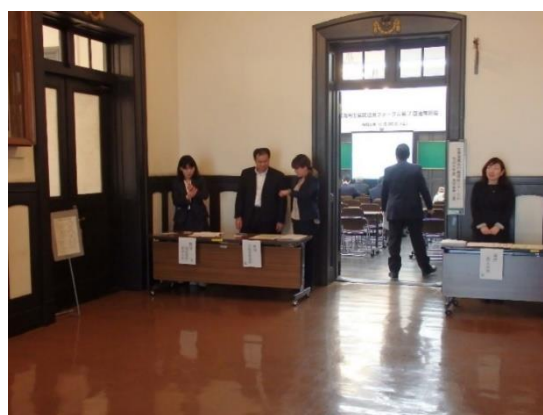
開催会場：横浜市開港記念会館2階6号室

出席者：32(団体・個人)、委任状提出26、合計出席者数58(団体・個人)であり、過半数は29(団体・個人)

議事次第

- 1. 開会
- 2. 議長挨拶

東京湾再生官民連携フォーラム議長 來生 新
- 3. 議事
 - (1) 総会議長選出
 - (2) 議題の採択
 - (3) 議事録署名人の選出
 - (4) 報告議題
 - (4)-1 平成30年度活動報告及び令和元年度活動計画
 - ① 平成30年度事業報告及び決算報告について



▲横浜市開港記念会館 総会受付

- ②令和元年度業計画及び予算について
 - (4)－2 プロジェクトチームの活動報告について
 - (5) 審議議題
 - (5)－1 東京湾再生推進会議への政策提案について
 - 東京湾パブリックアクセス方策の検討政策提案（案）
 - 東京湾の窓政策提案（案）
 - (5)－2 役員改選について（議長、監事2名）
 - (6) その他
 - (6)－1 P T長会議報告について
 - (6)－2 東京湾再生官民連携フォーラムクリーンアップ活動について
4. 閉会



総会 議長挨拶

6. 海ごみ・プラスチックゴミクリーンアップ活動の実施

- 海ごみ・プラスチックごみ クリーンアップ活動実施 既存活動の輪を作る。
 - ①海ごみ・プラスチックごみ クリーンアップ活動の拠点作り
 - ②会員を含めて既存活動団体との連携・連動③新たな連携活動（企業のCSR活動などとの連携）
 - ③私たちのライフスタイル・海ごみ・プラスチックごみの減量を通じて、湾の背後に住む私たちのライフスタイルを考え直し東京湾の恵みを考える。
- クリーンアップ活動を実施している会員の支援を行う。

海ゴミ、プラごみ クリーンアップ活動

- 11月9日（土）葛西海浜公園 東なぎさ クリーンアップ活動 えどがわエコセンターに参加協力
（葛西臨海公園から、漁船で東なぎさに渡り清掃活動）



▲スタート



▲漁船で東なぎさに（渡船）



▲回収説明



▲タイヤ等 不法投機ゴミもあり多くのプラゴミを回収

▼干潟・野鳥観察

ゆたかな自然と隣り合わせのプラゴミ回収



□11月16日(土) 『西なぎさ発：東京里海エイド』に参加協力 (DEXTE-K)

参加者：66名、企業&団体参加：参加は TOTO グループ、エコ電子工業、大同生命、J L Japan、東京湾再生官民連携フォーラムなど



▲スタート



▲細くなったプラゴミが散乱



▲ペットボトルや釣りで使うテグスなど



▲回収状況発表 チームでの参加挨拶



□第123回ミニクリーンアップ (12月1日(日)) 浦安三番瀬を大切に作る会に参加協力

三番瀬環境観察館前の護岸沿いの清掃

満潮だったこともあり護岸に寄せる波により、一見ごみは少なく感じるが、歩いてみるとプラスチックゴミが散見。掃除機による初めてのクリーンアップ活動を実施した。



▲護岸に降りて、プラゴミ回収の実施



▲はじめて掃除機を使ったプラゴミ回収作業



▲三番瀬環境観察館の裏手で回収プラゴミの整理



▲今までのクリーンアップ活動から回収ごみの色別・素材分類を実施し、違いを明確化する

7. プロジェクトチームの活動状況

◇東京湾環境モニタリングの推進 PT (PT長 古川 恵太)

(1) PT会議

- ・ 適宜メールベースで情報伝達 (東京湾環境一斉調査関連、生物調査関連、マップ作製など)
- ・ ワークショップ開催に合わせてPT会合を実施

(2) 東京湾環境一斉調査

- ・東京湾環境一斉調査への協力・参加

<調査項目および参加機関>

- ・実施時期・実施内容

①水質調査 令和元年8月7日(水)

東京湾の海域又は流域河川における下記の
いずれかの調査又は活動

水質調査：実施日における溶存酸素量（D
O）、化学的酸素要求量（COD）、水温、塩
分、流量、透明度等

②生物調査、環境啓発活動等

令和元年7月から9月 環境啓発活動等：水質改善等に関する普及啓発活動を含むイベントの実施

- ・主 催：東京湾再生推進会議モニタリング分科会、九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会
東京湾岸自治体環境保全会議 東京湾再生官民連携フォーラム東京湾環境モニタリングの推進プロジ
ェクトチーム
- ・東京湾環境一斉調査「実施状況などの公開」

https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/Monitoring/General_survey/Publicity/20191128publicity.pdf



(3) 令和元年度東京湾環境一斉調査ワークショップの開催

開催日：2019年12月2日 13:30~15:00

会 場：中央合同庁舎4号館4階 共用408会議室（東京都千代田区霞が関3-1-1）

議 題：1.開会挨拶、趣旨説明

2.話題提供

3.東京湾環境マップ Vol.14 について

◇生き物生息場づくりPT（PT長 佐々木 淳）

活動内容

幹事会：11月22日 第6回，7月22日 第7回

PT会議：3月26日 第10回，10月3日 第11回

再生目標生物 WG

マコガレイ産卵場の底質改善 WG

□政策提案「マコガレイ産卵場の底質改善」のフォローアップ

・12月25日 東京湾茜浜前面海域におけるマコガレイ産卵場調査の実施

・5月~6月 千葉港葛南中央地区の付帯施設改良工事で発生した砂を茜浜沖窪地に投入

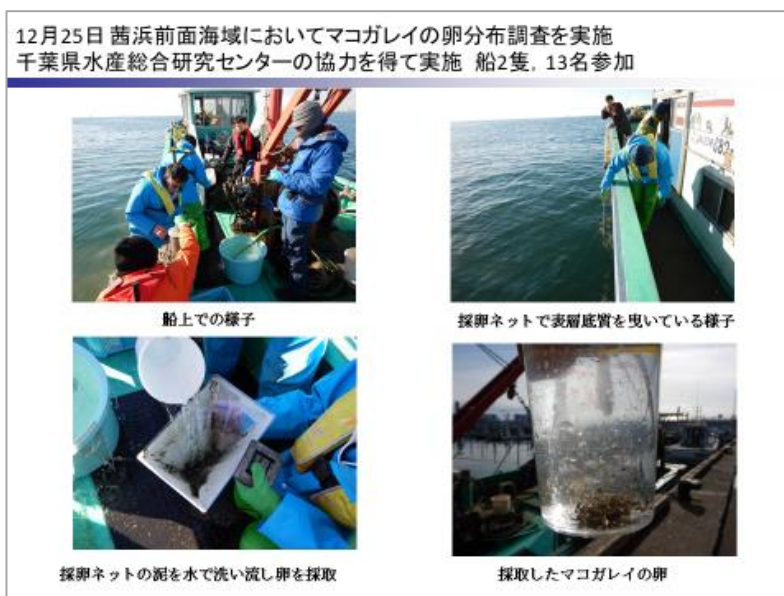
□東京湾大感謝祭の展示企画

・活動紹介パネル（H30，R1） ・東京湾産貝類の水深帯別の展示（H30，R1）

・子供向けのクイズ（H30，R1）

□新たな政策提案に向けた検討

- ・突発的に発生する有用土砂資源（含東京湾外）の有効活用方策や受入側とのマッチング，受入制度の整備



◇指標活用 PT（PT長 岡田 知也）

東京湾再生のための行動計画（第二期）の指標を平成 26 年度，東京湾再生推進会議に提案し，提案は採用 28 項目が設定されている。

〈活動主旨〉

東京湾再生官民連携フォーラムが提案した指標を，多様な主体が効果的に活用することをサポートし，東京湾再生のための行動計画（第二期）の全体目標が達成されることを支援する活動の実施

〈具体的な活動内容〉

市民データ収集

・データの整理・評価サポート

- a. ゴミ回収活動の参加者数等
- b. 水遊びや環境学習等のイベントの参加者数等
- c. 水遊び空間における水難事故防止のための監視・パトロール活動
- d. 東京湾の再生に取り組む企業・団体数等
- e. 藻場の箇所数

1. 今年度は中間評価報告に向けて東京湾再生推進会議と協働しながら検討作業実施。

2. アンケート調査の実施：7-8月

3. 2か月に1度の頻度でWGを開催

第1回 市民データWG（指標活用PT）

開催日：平成 31 年 4 月 17 日（水）

場 所：みなと総合研究財団会議室

第10回 データ整理・評価WG

開催日：令和元年 5 月 24 日（金）

場 所：みなと総合研究財団会議室

第2回 市民データWG

開催日：令和元年6月21日（金）

場所：みなと総合研究財団会議室

内容：透明度、COD、糞便性汚染、赤潮発生回数、DO濃度、青潮等の整理方法について専門家の視点から議論

◇東京湾大感謝祭 PT (PT長 木村 尚)

東京湾再生活動のためのPR活動の実施。

■催事名：東京湾大感謝祭 2019

・会期：2019年10月26日（土）～27日（日）

・会場：横浜赤レンガ倉庫および周辺海上

・主催：東京湾大感謝祭実行委員会

・共催：国土交通省関東地方整備局

横浜市東京湾再生官民連携フォーラム

（一財）みなと総合研究財団

東京湾の環境をよくするために行動する会

横浜港ボート天国推進連絡協議会・特別協力：環境省

・後援：東京湾再生推進会議 文部科学省

海上保安庁水産庁国土交通省関東運輸局（国研）

海洋研究開発機構（国研）水産研究・教育機構

埼玉県 千葉県 東京都神奈川県 さいたま市

千葉市 川崎市 横須賀市横浜港運協会

（公財）横浜観光コンベンション・ビューロー

（一社）横浜港振興協会 FMヨコハマ 経団連自然保護協議

（公財）日本釣振興会（一社）日本釣用品工業会

（一社）日本マリン事業協会（一財）日本海洋レジャー安全・振興協会 UMI協議会 日本内航海運組合総連合会

（公財）海技教育財団（独）海技教育機構（公社）日本

水難救済会 UMI協議会（一社）日本マリーナ・ビーチ協

会（公財）日本海事広報協会（一社）日本旅客船協会



東京湾大感謝祭 2019 開催のため実行委員会制度により企画から運営に至る会議を実施してきた。

会場：主に、みなと総合研究財団会議室

第4回東京湾大感謝祭実行委員会開催：令和元年4月23日（火）

第5回東京湾大感謝祭実行委員会開催：令和元年5月23日（木）

第6回東京湾大感謝祭実行委員会開催：令和元年7月4日（木）

第7回東京湾大感謝祭実行委員会開催：令和元年8月1日（木）

第8回東京湾大感謝祭実行委員会開催：令和元年8月27日（火）

第9回東京湾大感謝祭実行委員会開催：令和元年9月18日（水）

第10回東京湾大感謝祭実行委員会開催：令和元年10月16日（水）

第11回東京湾大感謝祭実行委員会開催：令和元年12月16日（月）



横浜赤レンガ倉庫 広場ステージにてフォーラム議長挨拶



東京湾海の環境再生賞表彰式



広場テント



海の学び場

<開催結果>

- 天候：2019年10月17日（木）曇、19日（土）曇、20日（日）晴、26日（土）晴、27日（日）晴
- 来場者数：10万1千名/5日間
- 出展者：全277小間/247社・団体
- ステージ：全35プログラムを実施※主なプログラム：オープニングセレモニー、海の学び場、東京ワンダー下水道、魚の塩釜焼、東京湾はエンターテイメント、BLUE CAMP ライブ
- 展示企画：全9企画を実施
SDGs 東京湾、江戸前の恵み、東京ワンダー下水道、レジャー・ツーリズム、WONDER ACTION CAFÉ、江戸前角打ち&キッチンカー、TOKYOONECRAFT
ふるさと納税・物産・くらしフェア、BLUE CAMP
- 海上イベント：全10プログラムを実施
水上飛行機離着水、海の救助訓練、清掃兼油回収船べいくりんデモ、第二海堡モニターツアー、

親子ハゼ釣り教室、ボート・ヨット体験乗船会、インナーハーバーSUP レース、
赤レンガ Café クルーズ、本牧ガントリークレーン見学クルーズ、江戸前屋形船

■取材：20社（テレビ2社、新聞7社、雑誌5社、その他6社）

◇パブリックアクセス方策・検討 PT（PT 竹口 秀夫）

政策提案の実施

平成31年3月20日（水）にPTを開催し、PT内における政策提案の最終版が検討され、さらに期をまたぎながらPTメンバーからの検討が加えられ、5月開催の企画運営委員会への提示を目指して作業が推進された。令和元年度通常総会において提案が承認された。

■政策提案：「東京湾パブリック・アクセス方策 政策提案“東京湾へGO”」（資料1）

◇東京湾での海水浴復活の方策検討 PT（PT長 関口 雄三）

昨年度提案した「東京湾奥での海水浴復活のための第一次政策提案」を踏まえ、そのフォロー、これに向けた実現のための検討活動を行う。

以下の事項について調査し、今後の活動方針を協議する。

- ①政策提案の官民連携フォーラムでの対応確認
- ②政策提案の東京湾再生推進会議や関係都県への周知度及び対応調査
- ③政策提案実現に向けての課題の抽出

第6回PT会議の開催

開催日：令和元年9月26日

議 題：上記①～③についての検討 課題の抽出

・関係者の理解を深める活動

政策提案を実現させるためには、既に海水浴を実施している事例を、東京湾奥沿岸の自治体に知ってもらうことが重要であり、関係自治体の首長が集まる場所（葛西海浜公園等）で事例報告会などを開催し、関係者の理解を深める活動の実施。

◇江戸前ブランド育成 PT（PT長 牧野 光琢）

活動内容

- ・各PTメンバーによる江戸前PR活動と東京湾大感謝祭での情報発信活動の実施。
- ・平成31年度 副PT長の就任：大日本水産会魚食普及推進センター 早武 忠利氏
- ・メンバーによる江戸前PR活動の実施

江戸前漁師を元気にする会、NPO 法人海辺づくり研究会、千葉県漁業協同組合連合会

大日本水産会、魚食普及推進センター、東京水産振興会、ハマの海を想う会、横須賀海の市民会議、

横浜市漁業協同組合：直売、食堂、イベント

- ・東京湾大感謝祭2019にて、前年度を上回る規模での出展を実現。
- ・各メンバーによるブランドPR活動のシナジー効果の模索

開催日：平成 30 年 10 月 10 日（水）
場 所：水産庁漁政部第 2 会議室
議 題：東京湾大感謝祭 出展について

◇東京湾浅瀬再生実験 P T（P T長 鈴木 康友）

活動内容

- ・浅瀬の再生事例の抽出及び情報収集（実地調査含む）、
- ・具体的な浅瀬となる候補地の検討（場所の抽出、制約条件整理）
- ・川崎市・川崎港等へのヒアリング活動の実施、P T 会議における浅瀬候補の具体化の検討

令和元年度会合

開催日：令和元年 9 月 17 日（火）

場 所：みなと総合研究財団会議室

議 題：

- ・川崎港、周辺浅瀬候補の事例検討
- ・川崎市港湾局による川崎港 塩浜物揚場の利用転換事業についての事例説明
市民が海と触れ合える「護岸・緑地」に改良
- ・今後どのように検討できるかの P T による知恵の提供等の検討



◇東京湾の窓 P T（P T長 芝原 達也）

活動内容

大都市圏・東京湾流域の市民と東京湾を結びつけるために、東京湾の保全と恩恵の享受をめざし、東京湾に関連する施設の窓としての機能強化を図る。

- ・東京湾スタンプラリーの実施
- ・東京湾学習フォーラムの実施
- ・政策提案の検討・協議・提案書の作成

東京湾の窓 P T 会合は、月 1 回開催し、上記の関しての活動のための議論が行われた。今年度は、第 16 回・4 月 25 日開催をはじめとして～政策提案後の会合、第 20 回 11 月 27 日開催するなど活発な討議が行われてきた。

政策提案の実施

8 月開催の企画運営委員会への提示を目指して作業が推進された。令和元年度通常総会において提案が承認された。

- 政策提案：「未来の東京湾と人のつながりの再構築に向けた、東京湾の窓施設のネットワーク推進に関する提案」（資料 2）

8. 東京湾再生官民連携フォーラム 共催、後援等の実施

(1) 東京湾ぐるっとスタンプラリーへの後援

開催日：令和元年年 8 月 1 日～令和元年 11 月 30 日

主 催：東京湾の窓プロジェクトチームスタンプラリー事務局

(2) 第 20 回東京湾シンポジウム

「～これまでの東京湾を振り返り、今後の東京湾を考える～」への後援

開催日：令和元年 10 月 17 日

場 所：横浜港大さん橋国際客船ターミナル 大さん橋ホール

主 催：国土交通省 国土技術政策総合研究所

(3) 第 11 回 東京湾海洋環境シンポジウム後援「海辺の生物調査：データを環境再生に役立てよう！」

開催日：令和 2 年 2 月 25 日

場 所：東邦大学理学部 5 号館（習志野キャンパス）

主 催：東京湾海洋環境研究会、東邦大学理学部東京湾生態系研究センター

9. 会員募集・広報活動

(1) 東京湾 News-Letter 配信

会員への情報提供は、東京湾-News Letter として実施し、隔週毎の配信、平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日 配信数：33 件行いました。（資料 p30 参照<東京湾-News Letter>）

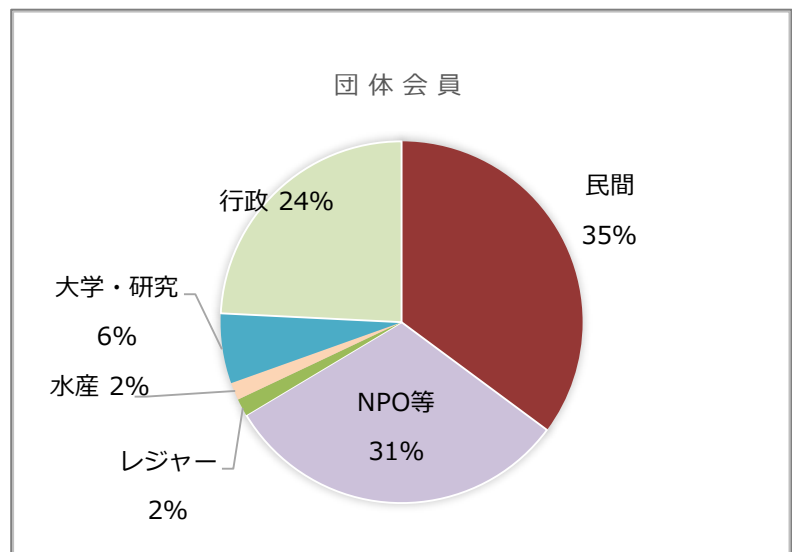
(2) 会員募集

会員募集の実施

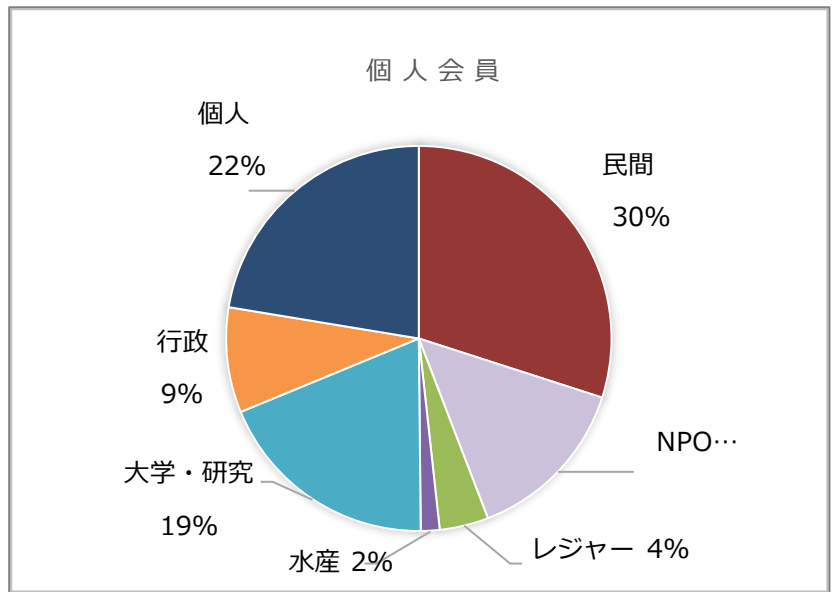
「東京湾再生官民連携フォーラム」（以下、フォーラムという）の趣旨に賛同し、会への参加を希望し、会員への登録申し込み者。東京湾の再生にあたっては、東京湾に関わる企業、研究者、水産関係者、レジャー関係者、NPO、市民、行政等の多様な関係者が、その英知を出し合い、共に連携協働し、楽しみながら環境再生の取組をする。賛同された会員の状況は下記のとおり。微増ながら毎年着実に会員が増加している。

（団体・個人会員数：令和元年 11 月 30 日 現在）

令和元年（11月現在）団体		
民間	45	35%
NPO等	40	31%
レジャー	2	2%
水産	2	2%
大学・研究	8	6%
行政	31	24%
合計	128	100%



令和元年（11月現在）個人		
民間	95	30%
NPO等	45	14%
レジャー	13	4%
水産	5	2%
大学・研究	60	19%
行政	28	9%
個人	71	22%
合計	317	100%



(3) 東京湾/フォーラム活動の紹介・各地への情報発信

東京湾再生官民連携フォーラムの活動紹介や東京湾を題材にした情報提供活動

(対象；講演会、セミナーシンポジウム、マス媒体、書籍、雑誌など出演やインタビューを受ける、執筆活動による書籍の刊行など)

	日時・講演名称 取材メディア名 書籍名など	テーマ(内容)	主体者	場 所
1	令和元年 5月2日： 釣りジャーナリストの会	ハゼの棲み処調査(江戸前ハゼ復活プロジェクト)について	古川恵太	日本釣振興会
2	5月20日： 名古屋大学・水域・海域環境学	沿岸域の再生・利用・管理	古川恵太	名古屋大学
3	6月16日： 生態系工学研究会 2019年度第1回 RACESセミナー	持続可能な開発目標(SDGs)と沿岸域の総合的管理(ICM)	古川恵太	大阪府立大学 I-site なんば
4	6月24日： CNAC 機関紙 うみ・にゅう	なぜ私たちは海辺づくりを名乗るのか	古川恵太	NPO 法人 海に遊ぶ体験活動協議会
5	6月27日： 海中授業	横浜港における生物生息の現状と環境保全について	古川恵太	みなとみらい 本町小学校
6	7月1日・8日： 統合的海洋管理学	沿岸域の総合管理「東京湾における持続可能な管理への道のりを例として」	古川恵太	横浜国立大学
7	7月9-11日： International Conference on Integrated Coastal Zone Management: Lessons Learned and Relevance for India	ICZM Experiences in Japan: Lessons Learned	Keita Furukawa	Anna University Campus Chennai, India

8	7月19日: 日本沿岸域学会	海苔づくりを通して見た都市 沿岸域の環境評価に関する予 察的研究	古川恵太	大阪府立大学 I-site なんば
9	7月24日: PEMSEA パートナーシッ プ会合	日本における ICM の進捗状況	古川恵太	インドネシア・スラバヤ市
10	8月19日: 再生官民連携フォーラムシ ンポジウム	熊本県沿岸域再生の現状と展 望	古川恵太	熊本県立劇場
11	9月1日: 江戸前ハゼ復活プロジェク ト	江戸前ハゼ復活プロジェクト の成果と概要説明のパンフレ ット	古川恵太	東京水産振興会
12	日本湿地学会 第 11 回 (2019 年度)大会 2019 年 9 月 7 (土) ~ 9 月 8 日 (日) 一般公開特別シンポジウ ム「東京湾の魅力を知ろう ~楽しい未来を考える~」 /司会 風呂田 利夫	・東京湾とのつながりと谷津 干潟の魅力 ・金沢八景・野島のアマモ場 にすむ魚たち ・東京都大田区・大森ふるさと の浜辺に親しむ活動あれこ れ ・東京湾におけるマコガレイ産 卵場の環境について	芝原 達也 工藤 孝浩 小山 文大 石井 光廣	習志野市谷津干潟 自然観察センター
13	10月13日: 統合海洋管理学 II	海洋に関する国際動向	古川恵太	横浜国立大学
14	10月22日: MEDCOAST2019	Construction of Regional Environment Governance in the Seas of East Asia	Xiang Gao, Keita Furukawa	Marmaris, Turkey
15	10月29日: Satoumi Workshop in Kuwait	Lessons learnt from Japanese experience: How do we interact with our seas?	Keita Furukawa	KISR, Kuwait

16	11月3日： 第2回三番瀬学習会	なぜ私たちは海辺つくりを 名乗るのか	古川恵太	うらやす三番瀬 環境学習館
17	11月5日： 日本港湾コンサルタント 懇話会	沿岸域再生の技術展開と基本 的考え方	古川恵太	日本港湾コンサルタント
18	11月13-14日： China-ASEAN Academy	Coastal Management and Sustainable Development: the Case of Tokyo Bay	Keita Furuka	NISCSS, Hainan, China
19	12月20日： メトロミニッツ No.206 日本のさかな	アマモ場の再生	木村 尚	スターツ出版
20	12月20日： メトロミニッツ No.206	江戸前ハゼ復活プロジェクト	古川恵太	スターツ出版
22	12月21日： 生態系工学研究会 令和元年度 第2回 RACES サロン	江戸前ハゼ復活プロジェクト のめざす東京湾での運河再生	古川恵太	大阪府立大学 I-site なんば
23	令和2年2月12日	第14回海の再生全国会議 基調講演	來生 新	東京海洋大学 楽水会館
24	令和2年2月12日	第14回海の再生全国会議 話題提供	芝原達也	東京海洋大学 楽水会館
25	3月末（出版予定）： 東アジア海洋問題研究	ブルーエコノミー概論と類型 化	古川恵太	東海大学出版部

(4) 資料-1 会員メール配信 東京湾 News Letter

件数	配信日	内 容
1	2019.4.16	平成 30 年度東京湾環境一斉調査結果のご案内 平成 30 年度 調査結果報告書 平成 30 年度も計：220 機関（重複機関含む） （内訳：民間企業、市民団体等、教育機関、研究機関等、地方公共団体及び国）の協力を得て実施できました。
2	2019.4.16	東京湾イベントカレンダー 情報収集協力をお願い今年度は課題となっている「海洋ごみ、海洋汚染プラスチック問題」 発生源となるゴミへのクリーンアップ活動の実施を予定しています。 日常の清掃活動（対象は陸、海域を問いません）、イベント時などクリーンアップ計画・予定等がありましたら活動概要のご連絡をお願いします。
3	2019.4.18	第 14 回多摩川河口干潟 SCOP100（干潟学習会・生物調査）参加者募集 ・干潟のいきもの調べ 2019 ・日 時：2019 年 5 月 19 日（日） 10 時から 15 時 30 分 ・集合場所：大師河原水防センター干潟館 ・参加費：無料 ・定員：50 名（定員になり次第締め切り） 小学校 3 年生以下保護者同伴
4	2019.5.6	新 3 か年事業計画スタート 令和元年を迎え、東京湾再生官民連携フォーラムでは、新 3 か年事業計画を発表し遂行していきます。あたらしい事業への取り組みを計画し、平成 30 年度第四回企画運営委員会に於いて実施が承認されました。今年度も新しい取り組みを行います。
5	2019.5.24	東京湾大感謝祭 2019 NPO・市民グループ等の無料出展枠のご案内 出展場所は、東京湾再生官民連携フォーラムの共有テント内です。室内は別イベントで使用のため、今年も屋外テントです。1 団体の占有スペースは、展示内容によって大小しますが、最大でも通常テント程度と思って下さい。出展費は無料ですが、展示物の運搬費等の諸費用は、出展者のご負担でお願いします。
6	2019.6.7	指標活用 PT データ収集（市民活動等の取り組みデータ）のご協力のお願い 東京湾再生のための行動計画（第二期）の指標をとおして、様々な団体による東京湾再生に関連した活動がより促進されることを期待し、次の 3 つの指標についてデータの収集を行います。これらの指標では、皆様の活動を広く知ってもらうことで、活動の大切さをアピールすることを目指しています。会員のみなさまのご協力を是非よろしくお願いいたします。 ①東京湾および東京湾に流入する河川におけるゴミ回収活動 ②東京湾における水遊びや環境学習等のイベント ③水遊び空間における水難事故防止のための監視・パトロール活動回数
7	2019.6.10	CSR-NPO 未来交流会 2019、参加者募集のご案内 開催日時：2019 年 7 月 18 日（木） 13:00~16:30 開催場所：東京都千代田麹町 5-1 弘済会館 4F(萩) 参加費用：500 円（資料代など）
8	2019.6.13	2019 アサリわくわく調査 in 野島 参加者募集 日 時：2019 年 6 月 22（土） 9:00~13:30（事前申し込みが必要です） 場 所：横浜市金沢区 野島（金沢シーサイドライン 野島公園駅下車 徒歩 8 分） 集 合：横浜市野島青少年研修センター裏（添付参照）

		<p>主 催：東京湾再生官民連携フォーラム、東京湾環境モニタリング推進 PT 共 催：海をつくる会 協 力：国土交通省国土技術政策総合研究所、東邦大学理学部東京湾生態系研究センター 調査指導：風呂田 利夫（東邦大学名誉教授）</p>
9	2019.6.17	<p>(一財) みなと総合研究財団主催『第3回東京湾海の環境再生賞』募集のお知らせ ・主 催：一般財団法人 みなと総合研究財団 ・賞の対象：東京湾の環境に係る藻場造成等の環境再生、普及啓発、青少年の育成等に取り組む団体活動事業活動またはその一環として取り組んでいるものを含む] であって、東京湾の環境の保全・再生・改善等に貢献するもの。 ・応募資格：主に市民団体、民間企業等の団体活動を対象</p>
10	2019.6.20	<p>夏の船カフェ 2019のご案内 夏の船カフェ 2019 を東雲運河（通称：東電堀）で開催されます。豊洲の地元の町会、商店会、学校、企業等との連携で実施し、地域の皆様と共に楽しいイベントです。 日時：2019.6.22（土）～2019.6.23（日）11：00～16：00 場所：東雲運河（通称：東電堀）/東京都江東区豊洲 5-1</p>
11	2018.7.24	<p>東京湾ぐるっとスタンプラリー開催のご案内 今回は、14の施設にご協力いただき、東京湾再生アンバサダーの柗太一アナウンサーとガリガリ君も応援に参加。事務局にスタンプを押したシートをご応募いただきますと、抽選でプレゼントが当たります。</p>
12	2019.8.01	<p>人と組織と環境をむすぶフォーラム in 東京 開催のご案内 セブン-イレブン記念財団では環境市民団体の活動を支援するために、地域の間支援組織と連携し、「助成金セミナー」を開催しています。今回の「人と組織と環境をむすぶフォーラム in 東京」では、昨今の環境課題を中心に、取り上げその行動について探求します。 日 時：2019年8月31日（土）13：00～17：30〔受付開始：12：15〕 主 催：（一財）セブン-イレブン記念財団 会 場：株式会社セブン&アイ HLDGS.ビル 1階会議室 （東京都千代田区二番町 8 番地 8）</p>
13	2019.8.6	<p>お台場でパリ気分、お台場海浜公園海水浴イベントのご案内 8月10日（土）から8月18日（日）、都立お台場海浜公園のビーチでの海水浴イベント「お台場ブラージュ」を開催されます。</p>
14	2018.8.8	<p>第20回東京湾シンポジウムの開催&ポスターセッションの「ポスター募集」のご案内 シンポジウムのご案内【登録締切：10月11日（金）】 第20回東京湾シンポジウム －これまでの東京湾を振り返り、今後の東京湾を考える－ 日時：2019年10月17日（木） 13：00-17：30（開場 12：00） 場所：横浜港大さん橋国際客船ターミナル 大さん橋ホール 主催：国土技術政策総合研究所</p>
15	2018.8.9	<p>9月3日開催・施設見学会 2019 参加者募集のご案内 見学会は、昭和電工（株）プラスチックケミカルリサイクル工場（神奈川県川崎市川崎区扇町 5-1 昭和電工（株）川崎事業所）です。プラごみの海洋流失が昨今、話題となり、生き物への影響も懸念されています。またプラスチックごみの輸出も大きな問題となり、グローバルな対策が関心ごとです。リサイクルの現状の知見を広める一つとして、今回の施設見学会先いたしました。</p>

16	2019.8.19	企画運営委員会 審議中の政策提案書に関する会員の意見照会 政策提案（案）「東京湾へGO」に関する会員意見照会
17	2019.9.6	審議中の政策提案書に関する会員の意見照会 「未来の東京湾と人のつながりの再構築に向けた、東京湾の窓施設のネットワーク推進に関する提案」対する意見照会
18	2019.9.24	東京湾再生官民連携フォーラム 令和元年度通常総会、東京湾大感謝祭 2019 開催のお知らせ 東京湾再生官民連携フォーラム 令和元年度通常総会 日 時：令和元年 10 月 26 日（土） 9：20 ～ 11：10（受付開始 9：00） 会 場：横浜市開港記念会館
19	2019.9.25	葛西海浜公園ラムサール条約登録 1 周年記念シンポジウム開催のご案内 名称：人々と共に生き、生命（いのち）育む海を目指して-葛西海浜公園ラムサール条約登録 1 周年記念シンポジウム- 日時：令和元年 10 月 20 日（日曜日）13 時 30 分～16 時 00 分 （13 時 00 分受付開始） 場所：東京都議会議事堂 1 階 都民ホール 定員：250 名（事前申込制・先着順）参加費：無料
20	2019.9.25	清掃活動 情報収集のお願い 会員それぞれの活動の中で、河川・海のクリーンアップ活動を実施する情報を収集し、連携をはかり、東京湾へのプラゴミの流出をストップする活動に繋がっていきたくと思っています。
21	2018.10.3	「プラスチックごみの海洋汚染を止めよう！地球はひとつ」～考えよう、プラごみを減らす生活～ 講演会・展示 開催のご案内 日 時・2019 年 10 月 12 日（土） 開 場・13：30 講演会・14：00～15：30 展 示・13：30～16：00 会 場・タワーホール船堀 2 階 蓬莱（ほうらい）の間 募集人数・80 名（申込み順）費 用・無料 主 催・認定 N P O 法人えどがわエコセンター 共 催・ N P O 法人荒川クリーンエイド・フォーラム
22	2018.10.4	官民 東京湾大交流会 ・日時：2019 年 10 月 26 日（土）18 時より（開場 17 時 30 分） ・会場：象の鼻テラス横浜市中区海岸通 1 丁目 TEL：045-661-0602 ・会費：5000 円
23		東京湾再生官民連携フォーラム 令和元年度通常総会のご案内 審議事項 （1）第一号議案 議題の採択 （2）第二号議案 東京湾再生推進会議への政策提案について ①東京湾パブリックアクセス方策の検討政策提案（案） ②東京湾の窓政策提案（案） （3）第三号議案 役員改選について（議長、監事 2 名）
24	2019.11.11	西なぎさ発:東京里海エイド 海ゴミ・プラゴミ清掃活動 参加者募集清掃活動概要 日 時：11 月 16 日（土）集合時間：9 時 30 分 集合場所：西なぎさの白いテント脇集合（なぎさ橋渡って右側） 「葛西臨海&海浜公園エコプロジェクト」に取り組んでいる D E X T E - K ・橋爪代表に協力連携し、11 月 16 日（土）開催する東京里海エイド：海ゴミ・プラゴミ清掃活動に事務局参加します。同時に、会員みなさまのご参加を募集します。

25	2018.11.12	東京港野鳥公園 里地里山フェスティバル 11月17日開催のご案内 フォーラム、東京湾を楽しむ-9つの東京湾活動紹介展示・参加 <イベント概要> 日時：2019.11.17（日曜）、イベント開催時間：10：00～15：00 場所：東京港野鳥公園（東京都大田区東海3-1） 主催：主催：東京港野鳥公園イベント実行委員会
26	2019.11.14	令和元年度東京湾環境一斉調査ワークショップのご案内 日時：2019年12月2日13：30～15：00 会場：中央合同庁舎4号館4階 共用408会議室 (東京都千代田区霞が関3-1-1)
27	2019.11.27	11月24日（日）葛西海浜公園 西なぎさ 海ゴミ・プラゴミ清掃活動 参加者募集 今回の募集は、毎月第四日曜日に、認定NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会による清掃活動です。海ゴミ・プラゴミ清掃活動に事務局参加します。 <清掃活動概要>日 時：11月24日（日） 集合時間：10時00分 集合場所：葛西海浜公園 西なぎさの白いテント脇集合
28	2018.11.27	12月1日（日）浦安三番瀬の第123回ミニクリーンアップ参加者募集 浦安三番瀬を大切にすべし 主催・第123回ミニクリーンアップのご案内。海ゴミ、プラゴミ対策をする事務局では、ミニクリーンアップに参加します。 ◇第123回ミニクリーンアップ活動概要 日 時：2019年12月1日（日）9時～11時 集 合：浦安市三番瀬環境観察館 前 アクセス：(千葉県浦安市日の出七丁目9番1号)
29	2019.12.6	12月4日（水）政策提案2件の手交実施のご報告 12月4日（水）に、東京湾再生官民連携フォーラムから東京湾再生推進会議へ、「東京湾の再生に向けたパブリック・アクセス方策に関する政策提案」および「未来の東京湾と人のつながりの再構築に向けた東京湾の窓施設のネットワーク推進に関する政策提案」を東京湾再生官民連携フォーラム来生議長から推進会議 山田幹事長（海上保安庁総務部参事官）に手交が行われた。
30	2019.12.6	令和元年度東京湾環境一斉調査結果 速報（水質調査）の公開のご案内 今年度で第12回目の実施となる「東京湾環境一斉調査」は、「水質調査」・「生物調査」・「環境啓発活動等のイベントの実施」の3の項目で構成されています。今回の公開は、「水質調査」についての結果速報のご案内です。
31	2020. 1.21	CNAC 第14回全国フォーラム開催のご案内～キーノートスピーチ「クジラが泣いている～海洋ゴミ問題を考える～」～ 《CNACCNAC 第14回全国フォーラム概要》 【日 時】2020年2月1日（土）13：30～17：20（受付13：00より） 【会 場】日本丸メモリアルパーク内日本丸訓練センター 第1・2会議室
32	2020. 1.31	第14回 海の再生全国会議開催のご案内 東京湾の未来にむけて ～力をあわせて取り組む東京湾再生～ 日 時：令和2年2月12日（水）13：30～17：00 場 所：東京海洋大学 楽水会館
33	2020.2.10	第11回東京湾海洋環境シンポジウムのご案内 「海辺の生物調査：データを環境再生に役立てよう！」2月25日（火） 会 場：東邦大学理学部5号館（習志野キャンパス） 主 催：東京湾海洋環境研究会、東邦大学理学部東京湾生態系研究センター 後 援：東京湾再生官民連携フォーラム

(4) 資料－2 業界紙・誌等掲載

- 港湾新聞 2019.11.12 東京湾再生官民連携フォーラム総会開催
港湾新聞 2019.11.19 東京湾の恵みを楽しみ感謝する東京湾大感謝祭盛大に開催
港湾新聞 2019.12.10 東京湾再生官民連携フォーラムが東京湾再生推進会議へ政策提案
パブリック・アクセスと東京湾の窓施設等
港湾空港タイムス 2019.12.16 京湾再生官民連携フォーラムが東京湾再生推進会議へ政策提案

10. 政策提案書

東京湾パブリック・アクセス方策 政策提案“東京湾へGO”

未来の東京湾と人のつながりの再構築に向けた、東京湾の窓施設のネットワーク推進に関する提案

資料1

令和元年 12 月 4 日

東京湾再生官民連携フォーラム

東京湾パブリック・アクセス方策 政策提案 “東京湾へGO”

1 提案の主眼

東京湾再生のための行動計画（第二期）において、人と海をつなぐりを回復するため、海辺に行きやすくすることを目標の一つに掲げている。この提案はその具体化を図ろうとするものである。

2 東京湾へ行く上での課題

- ①東京湾臨海部（特に東京湾西部）には工場や物流施設が立地し、多くの市民が東京湾には行くことは難しいと思っている。
- ②東京湾岸には海浜公園をはじめ市民が東京湾に触れる場は多くあるが人々に知られていない。
- ③海浜公園等に行っても、公園や前面の海についての情報がないので、公園等を利用するだけで海に関する興味や関心を高められない。
- ④最寄駅から徒歩やバスで海との接点まで行けるが、交通量が多く、景観が優れているわけでもないので、アクセスルートは現状のままでは魅力に欠ける。

3 東京湾パブリック・アクセス方策

- ①専用アプリを開発し、情報提供システムを構築する。提供する情報内容は人々を楽しく、興味を持って東京湾に

誘うものとするはもとより、人々が東京湾の再生に向けて主体的に行動する契機になるようなものとする。

②海との接点を「視点場」とし、海浜公園、釣り桟橋、海洋学習施設（海に至近のもの）等を位置づける。

・工場敷地については、市民の利用環境が整っている場合は視点場として活用する。

この場合、利用日時、事前予約、引率責任者の指定、1回あたりの利用者の上限等の条件を付すことを可能とする。

・視点場において、施設管理者は、その場所の由来、施設の目的、前面に展開する海洋の状況（航路、水質、生物等）、遠景の概要等を分かり易く情報提供する。

また、民間の施設管理者には同様の取組みをお願いする。

③最寄駅（主に鉄道駅）から視点場への道筋をルートとし、そのルート上に海に関するポイントを指定する。

・ポイントは、かつての漁港、ノリ採取場、潮干狩り、釣り場、貝塚等から、東京湾関連市民団体の活動拠点、神社仏閣（本尊が東京湾ゆかり、亀や鯨を祀っている等）、江戸前の食事提供場所、海洋学習拠点、さらには民話等可能な限り人々の興味と関心と呼ぶ場所を指定する。

・ポイントで提供する情報内容は、ポイント毎に東京湾との関係、ポイントの経緯、現状等東京湾への関心を惹起するものとする。その際、可能ならば浮世絵や写真等の図画を活用する。

④情報提供の方法

・GPS機能を活用したスマートフォンを利用する。

・東京湾へGOを選択すれば、東京湾パブリック・アクセスのコース名と主要なポイント、視点場が表示される。その詳細をクリックすれば個別コースのガイドが可能になる。

・最寄駅から視点場までの地図を表示し、コース上を進み、コースポイント、視点場に近付くと、自動的に音声で分かり易い情報が提供される。（民間企業でソフトが開発され商品化されている。）

・なお、提供情報を冊子化すること、視点場とポイントの情報を掲示物にすることも有効である。また、この情報内容をコンビニエンスストアでプリントアウトすることも可能である。

・東京湾岸域では「街歩き」のガイドをするボランティア活動も盛んであり、作成した情報をボランティア団体に提供してガイドをしてもらうことも有効である。

4 推進体制

・全体の進行管理は東京湾再生推進会議をお願いをし、情報コンテンツの作成、関係先との調整、コストの負担は地元自治体をお願いしたい。

・東京湾再生官民連携フォーラムは要請があれば最大限協力する。

5 その他

・東京湾において船舶を活用した海洋環境学習について東京湾再生推進会議において研究を深めていただきたい。

令和元年 12 月 4 日
東京湾再生官民連携フォーラム

未来の東京湾と人のつながりの再構築に向けた、 東京湾の窓施設のネットワーク推進に関する提案

1. 私たちが目指す理想の姿

- ・東京湾が、日本が誇るべき自然・文化・経済の財産として流域内約 3,000 万人の人々に認識され、その再生が社会的な文化となる。
- ・東京湾の魅力を知る機会に恵まれ、東京湾が市民生活を豊かにする身近な海として愛され、その歴史が文化資源となる。
- ・東京湾の歴史や環境について学び、東京湾の再生と保全に参加する機会が広く提供される。

東京湾は、江戸時代から世界最大の大都市圏で、“江戸前”という日本を代表する文化を生んだ人間生活と深い関係のある内湾である。しかし、近年の沿岸の大規模な海岸の埋め立てと都市化による生物生息場の消失、水質の悪化で生態系が劣化し、漁業の継続も厳しい状況である。沿岸住民と東京湾を結びつけたヨシ原や干潟が広がる海岸は、埋め立てでほとんどが消失し、市民にとって身近な海であった東京湾は遠い存在となっている。

開発が進んだ東京湾だが、湾岸には野鳥観察や干潟学習、水族館、漁業を含む歴史文化を紹介する博物館や観察施設等の東京湾関連施設があり、湾の環境と魅力を紹介する貴重な役割を担っている。東京湾の恵みのワイズユースに関する普及啓発活動の促進のためにこれらの施設が果たしてきた役割は大きい。これらをさらに活用して、東京湾の恵みの社会的享受を推進する場として市民と東京湾を結びつけ、生態系の保全再生を促進する活動への参加を受け入れる拠点「東京湾の窓施設」としてさらに発展する可能性を持っている。

しかし、現状ではこれらの施設は各自自治体のもとに個々に運営されているのみで、東京湾の保全のために行政区分を超えた施設の連携やネットワークはない。この状況を打開する試みとして「東京湾の窓 PT」による“東京湾スタンブラー”の例があるが、行政との連携は始まったばかりでボランティアな運営に頼り、持続性は乏しい。

本政策提案は、既存の「東京湾の窓施設」の活用による東京湾の再生と、東京湾と流域市民との関係の再構築に向けて、下記の提案を東京湾再生推進会議および関連機関に行う。

《提案》

- ＜1＞ 海洋教育・環境教育の場として東京湾・「東京湾の窓施設」の活用を活発にするための教育分野との連携
- ＜2＞ 「東京湾の窓施設」の横断的活動を活発化する施策の推進
- ＜3＞ 「東京湾の窓施設」の機能・役割等について認識の共有を図る研修等の実施

2. 「東京湾の窓施設」が持つ社会資源としての可能性

私たちが目指す理想を実現するには、さまざまな機能を持ち、活動の拠点となりうる東京湾関連施設の活用が鍵となる。私たちはこれらの施設を「東京湾の窓施設」と呼んでいる。窓とは、“開かれたきっかけ（東京湾をのぞきこむ窓）”をイメージしたもので、大都市圏・東京湾流域の市民と東京湾を結びつける拠点となる施設を“窓”として、機能

強化を図る方策をこれまで検討してきた。東京湾の窓 PT（以下、窓 PT）が考える「東京湾の窓施設」を例示する（資料 1 参照）。東京湾を体験し学ぶ場として海上公園や海浜公園、釣り桟橋、マリナー等もあるが、ここではインタープリターや学芸員等がいる施設をリスト化した。

現在、これらの施設は地元の各自治体によってそれぞれの設置目的のもとに運営されているが、“東京湾”という共通の言葉のもとに、東京湾再生推進会議をはじめ、東京湾岸自治体環境保全会議、行政職員、施設職員、教育機関（教育委員会、学校）等各関係者が枠組みを超えて連携し、「東京湾の窓施設」を活用していく必要がある。窓 PT では「東京湾大感謝祭」への出展や「東京湾スタンプラリー」、「東京湾環境学習フォーラム」、「現場観察会」等の実践と経験、PT 内での議論や検討から、以下の様々な可能性を見出すことできた。

20 箇所以上ある「東京湾の窓施設」は、インタープリターや学芸員等の専門スタッフを配置している。施設には年間数万人から数十万人の利用者があり、全体では百万人を超える規模となる。専門スタッフは年間を通じて様々な体験・学習プログラムを提供している。また、施設に隣接する、埋め立てを免れた干潟や施設内に造成された干潟等は鳥類や魚類、底生生物の生息場となっており、一部の施設ではスタッフが定期的に生物調査を市民参加で実施している。これらの活動は、市民が東京湾に親しみ、楽しみながら市民参加型の東京湾のモニタリング活動および保全活動に参加する機会として重要であり、「東京湾の窓施設」として位置づけることによって、今後、広く提供される可能性がある。

加えて、「東京湾の窓施設」は、東京湾再生官民連携フォーラムの各 PT の活動成果の発表や東京湾再生推進会議の取組みのアピールを行う場として活用できる。これらの主体の連携促進だけでなく、市民に対する情報発信や参加の機会の提供によって東京湾再生に向けた活動をより活発にする効果が十分に期待できる。

さらに、「東京湾の窓施設」は、持続可能な開発目標（SDGs）に直接・間接に関係した活動を既に実施しており、提案の実現によってさらに貢献度は増すと期待される。国連では、海洋保全のために 2021 年から「持続可能な開発のための国連海洋科学の 10 年」を定めており、官民の連携によって保全と再生を目指す東京湾が果たす役割は大きい。

本提案の趣旨は、以上の「東京湾の窓施設」が持つ可能性を引き出すために、関係者や施設等の連携や協働を促進するものである。

3. 提案内容とその理由

<1> 海洋教育・環境教育の場として東京湾・「東京湾の窓施設」の利活用を活発にするための教育分野との連携

東京湾流域には日本の全人口の約 4 分の 1 が生活し、大都市圏に隣接する東京湾であるが、沿岸に点在する自然・半自然的環境、および環境や文化、歴史を学習できる施設や場は、沿岸流域に暮らす子どもたちにとって貴重である。

2007 年の海洋基本法制定後、海洋教育の重要性が認識され、2016 年に安倍晋三内閣総理大臣は、海の日メッセージとして、海洋教育の取り組みを強化していくために海洋教育推進組織「日本学びの海プラットフォーム」を立ち上げ、2025 年までに全ての市町村で海洋教育が実践されることを目指すと述べている。また、改訂学習指導要領が 2020 年度から全国の小学校でスタートし、学習フィールドとして東京湾の湿地がさらに活用される可能性が高まる。

「東京湾の窓施設」の多くは、東京湾という財産を活用し、体験的な教育活動を実施してきており、地域と関わりの深い既存の施設はこれまでの知識や経験を生かして、学校教育に貢献することができる。このことは東京湾保全のこれからを担う人材の育成にも資するものである。

そこで海洋教育・環境教育の場として東京湾の利活用を活発にし、教育活動を通じて東京湾をさらに一般化するために教育分野との連携を図ることを提案する。たとえば、東京湾の学習・教育活動の充実に向け、東京湾再生会議への「海洋教育・人材育成分科会」の設置や文部科学省の参加、「東京湾岸自治体保全会議」と各自治体の教育委員会と

の連携等が考えられる。教育分野における「東京湾の窓施設」の連携とその活用についての検討を要望する。

<2> 「東京湾の窓施設」の横断的活動を活性化する施策の推進

東京湾の各地先の海辺環境や地域の歴史を踏まえて設置されている「東京湾の窓施設」は、それぞれに設置目的があり、扱うテーマも特色がある。一方で、東京湾の自然や環境に関する情報発信や広報活動、東京湾の自然再生や保全、普及啓発の取り組み等、共通する役割や機能も少なくない。

東京湾は一つの水面であり、多様な利用や保全が望ましい姿として実現されるためには、東京湾の様々な側面を知り、認識を共有していくことが重要である。このため、各「東京湾の窓施設」が持つ知見や情報を共有し、相互に施設の役割を認め合い、東京湾の保全や再生を目指すために連携・協働していくことが重要となる。

現在、窓 PT が取組んでいる“東京湾スタンプラリー”の運営は、窓 PT メンバーや各施設の自主的な努力に頼っており、横断的取組みを継続的に行なっていくよう、行政間の連携－例えば事務局の設置、東京湾岸自治体環境保全会議との共同開催等を検討いただきたい。

ネットワークが機能すると、東京湾の普及啓発の推進のほかにも、各施設で取り扱う生物や環境に関する情報収集、調査結果の取りまとめや発信等について横断的活動が盛んになると考えられる。各施設に付属する野外現場では、人為的あるいは自然的な要因により環境や生息する生物の状況は時間とともに変化しており、「東京湾の窓施設」を東京湾のモニタリングの拠点として活用することができる。

なお、東京湾再生官民連携フォーラムで検討している「東京湾の日」の制定については、普及啓発活動の促進と参加・行動の機会の提供を行う「東京湾の窓施設」に対して“東京湾”の共通認識化とすべての関係者の協働を図る取組みとして期待したい。窓 PT として、「東京湾の日」の制定に賛意を表すとともにもその普及に協力していく。

<3> 「東京湾の窓施設」の機能・役割等について認識の共有を図る研修等の実施

より多くの沿岸・流域の市民が「東京湾の窓施設」を訪れ、東京湾を知り、親しむためには環境や教育に関して専門的なスキルを持つ人材が必要であり、東京湾の保全に向けて施設のネットワークを強化するために、以下の施策の検討を要望する。

施設職員や自治体の施設担当者が、東京湾の自然、地域との関わりの歴史と現状、施設の機能や役割について学び、共有することが重要である。このため、スキルアップのための研修会の実施について検討いただきたい。また、施設運営に関しては、監督的立場にある自治体職員は、市民が自然環境と直接触れあいながら学習できるよう、現場体験を安全かつ効率的に行える施設や設備について理解し、その上でこれらの設置や改善が求められる。

以上の行政間の連携によって、施設職員および自治体職員は、施設の設置目的とそれに沿った事業を実施するため、東京湾の環境や生態系、歴史性等湾全体の特性について流域を含む広い視野を持ち、環境教育や情報発信、人材育成等で施設の社会的貢献につなげることができる。

以上

資料 1

「東京湾の窓施設」の例（2019年10月現在）

名称	所在地
1 観音崎自然博物館 ※	神奈川県横須賀市
2 横須賀市自然・人文博物館	神奈川県横須賀市
3 水防センター大師河原干潟館 ※	神奈川県川崎市
4 八景島シーパラダイス ※	神奈川県横浜市
5 八聖殿郷土資料館	神奈川県横浜市
6 葛西臨海公園鳥類園ウォッチングセンター ※	東京都江戸川区
7 葛西臨海水族園 ※	東京都江戸川区
8 江戸川区こども未来館	東京都江戸川区
9 豊海おさかなミュージアム ※	東京都中央区
10 しながわ水族館 ※	東京都品川区
11 船の科学館	東京都品川区
12 東京港野鳥公園 ※	東京都大田区
13 大森海苔のふるさと館/大森ふるさとの浜辺公園 ※	東京都大田区
14 行徳野鳥観察舎/行徳鳥獣保護区・行徳近郊緑地保全区域 ※	千葉県市川市
15 浦安市郷土博物館 ※	千葉県浦安市
16 谷津干潟自然観察センター/谷津干潟公園 ※	千葉県習志野市
17 ふなばし三番瀬環境学習館/三番瀬海浜公園 ※	千葉県船橋市
18 みなとオアシス“渚の駅”たてやま/渚の博物館（館山市立博物館分館）※	千葉県館山市
19 君津市漁業資料館	千葉県君津市
20 南房総市大房岬自然の家	千葉県南房総市
21 富津埋立記念館	千葉県富津市

※ 2019年度東京湾スタンプラリーに参加した機関

「東京湾の窓プロジェクトチーム（PT）」の紹介

東京湾再生官民連携フォーラムのもとに設置された東京湾の窓 PT（以下、窓 PT）は以下に述べる現状認識と課題のもと、自然観察施設、海上公園、歴史博物館等複数の「東京湾の窓施設」関係者と、大学、市民団体、国交省等の関係者により 2016 年 3 月に発足し、東京湾の再生と保全を目指す普及啓発と参加・行動の機会の提供を進展させるための“窓”の潜在的役割とその社会的役割の実行に対する課題分析に取り組んできた。

窓 PT は以下の現状認識・課題のもとに活動してきている。

●東京湾の窓 PT の現状認識（窓 PT の新規設立要望書より引用）

誰もが東京湾に魅力を感じ、東京湾の環境の恵みを受け、豊かで四季を感じられる東京湾は市民や生活者にとって重要である。しかし、高度に開発が進んだ東京湾では、東京湾を身近な海として感じる機会は限られている。また、多くの人々が東京湾の生態系サービス（例えば、都心のヒートアイランド現象を緩和する東京湾からの海風等）の恩恵を受けているにもかかわらず、その価値があまりよく知られていないのも実状である。**（普及啓発活動の推進の課題）**

東京湾の再生は、湾に流入する河川や下水処理水の水質の改善のための処理の高度化や貧酸素水塊、青潮の解消のための深場の埋め戻し等を行政が実施している。そして、市民や企業等民間の多様な主体が東京湾の再生のために連携し実行することが求められている。東京湾流域の住民はその恩恵を受けるとともに、保全・再生のために 個人個人の参加や行動が課題である。**（参加・行動の推進の課題）**

窓 PT は、第一期行動計画で明らかになった、“活動や行動の輪を広げる工夫”を自分たちの持つリソースを使い、実行し、東京湾再生のために情報共有を図り、あたらしい仕掛けを作り、同湾で活動している組織・団体との連携を図ることが課題と考える。

この取り組みは、東京湾再生のための行動計画(第二期)における、以下の施策を拡充し具体化するものである。

〈海域における環境改善のための施策〉

多様な者との連携・協働による海における環境教育や体験学習、マリトレジャー、関連イベント、「江戸前」をはじめ多様な豊かな恵みの啓発や情報発信等の機会の創出を推進するとともに、市民が海に親しみやすい環境の整備を図る。(東京湾再生のための行動計画(第二期)より)

東京の窓 PT のこれまでの取り組み

- ・ 2016 年 10 月 「東京湾大感謝祭」 出展
- ・ 2017 年 02 月 「東京湾環境学習フォーラム」 開催に協力
- ・ 2017 年 06 月 「東京湾・公園めぐりスタンプラリー」 開催に協力
- ・ 2017 年 09 月 「行徳鳥獣保護区で生物観察！」 撮影
- ・ 2017 年 10 月 「東京湾大感謝祭」 出展
- ・ 2018 年 08 月 「東京湾ぐるっとスタンプラリー」 開催
- ・ 2018 年 10 月 「東京湾大感謝祭」 出展
- ・ 2019 年 08 月 「東京湾ぐるっとスタンプラリー」 開催

11. 令和元年度決算書

東京湾再生官民連携フォーラム 令和元年度 決算

【収入の部】

(単位:円)

2020/6/3

科目	R元年度予算(A)	R元年度決算(B)	備考	差額 (A)-(B)
(1) 寄付金収入	0	152,364		▲ 152,364
(2) 助成金収入	4,000,000	4,000,000	セブン-イレブン記念財団	0
(3) 雑収入	0	32,508		▲ 32,508
普通利息	0	8		▲ 8
その他	0	32,500		▲ 32,500
(A) 単年度収入合計	4,000,000	4,184,872		▲ 184,872
(B) 前年度繰越金	25,595	25,595		0
(C) 収入合計=(A)+(B)	4,025,595	4,210,467		▲ 184,872

【支出の部】

(単位:円)

助成費目	R元年度予算	R元年度決算(案)	備考	差額 (A)-(B)
(1) 事務局経費	3,141,662	3,140,960		702
1) 事務局 人件費	2,751,020	2,751,054		▲ 34
2) 事務局 運営費	390,642	389,906		736
(2) フォーラム事業費	858,338	859,040		▲ 702
(D) 助成申請金額	4,000,000	4,000,000		0
(E) 単年度収支差額=(A)-(D)	0	184,872		▲ 184,872

支出 助成対象外

PT活動	2,500	2,500		0
会議費等	0	48,118		▲ 48,118
交通費・運搬費	0	0		0
人件費	0	81,880		▲ 81,880
(F) 助成対象外計	2,500	132,498		▲ 129,998
(G) 支出総額=(D)+(F)	4,002,500	4,132,498		▲ 129,998
収支差額(次年度繰越金)	23,095	77,969		

セブン-イレブン記念財団

※ 東京湾再生官民連携フォーラム事業は、一般財団法人セブン-イレブン記念財団からの
多大なご支援を受けて活動しています。

ご寄付への感謝

赤城乳業株式会社をはじめ、5団体・個人の方からご寄附を頂きました。
感謝、御礼申し上げます。



この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」
が推奨する事業として認定を受けています

東京湾再生官民連携フォーラム 事務局

東京都港区虎ノ門 3-1-10 第2虎の門電気ビルディング 4F

(一般財団法人 みなと総合研究財団内)

電話 03-5408-8298